

平成 26 年度第 1 回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会 結果概要

◆日時 平成 26 年 5 月 15 日（木）19：30～20：25

◆会場 伊勢市役所本庁舎 4 階 4-5 会議室

◆出席委員

齋藤 平委員、大津春久委員、木村成吾委員、西山 敦委員、大西 栄委員、岩崎良文委員、奥田昌利委員、西村純一委員、前田政吉委員、田村重幸委員、小見山健司委員、中村 功委員、米倉敦也委員、畑 芳晴委員、東谷泰明委員

◆欠席委員

早川正素委員、山崎勝也委員

◆出席職員

情報戦略局長、企画調整課長、企画調整課係長、企画調整課主事、企画調整課係員、健康福祉部副参事、こども課長、商工労政課労政係長、農林水産課長、観光企画課顧客宣伝係長、交通政策課長、広報広聴課長、社会教育課長、都市整備部次長、産業支援課企業誘致係長、病院事務部参事

◆内容（概要は別紙のとおり）

- 1 パブリックコメントの実施結果について
- 2 伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン案について
- 3 今後の進め方について
- 4 伊勢志摩圏域について懇談

1 パブリックコメントの実施結果について

事務局より説明の後、委員から次の意見があった。

→パブリックコメントをビジョン案に反映させるにあたっては、定住自立圏の全体としての視点と、パブリックコメントで言及のあった個としての視点は同じではないことから、意見をそのまま採用するのではなく、圏域全体の視点を考慮しつつ、有用であるかどうかを慎重に検討して採用する姿勢が望ましいと考える。

2 伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン案について

事務局より説明

3 今後の進め方について

事務局より説明

4 伊勢志摩圏域について懇談

○情報システムについて

- ・気軽にアクセスできる情報のネットワークを圏域で構築できないか。玉城町では生活に便利な情報サービスを一部提供しているが、このような仕組みを圏域全体で発達させ、圏域内であればどこでもコミュニティバスや医療受診を効率的に利用できるシステムを構築できれば良いと思う。

- ・情報を効率的に利用できる社会は確かに理想であるが、多くの情報に溢れていて本当に必要な情報を選択しづらい社会にもなっている。情報を選択しやすいように配慮されたシステムを構築する必要なのではないか。

→(事務局説明)例えば、伊勢志摩定住自立圏域をカバーするポータルシステムは、今後の重要な検討課題であると考えられるが、個人情報扱い、技術的な問題など幾つかの課題があるため、長期的な視点で、取り組みやすいところからの構築を進めていく必要があると考える。

○交通について

- ・圏域の中心市である伊勢から連携市町に伸びる道路を整備するのではなく、サニーロードのように伊勢の周辺を通過する道路を整備し、環状道路のような形態をつくることで、市街地の渋滞解消につなげることができると思われるが、進める方法としてはどのようなものがあるのか。

→(事務局説明)市町をまたぐ環状道路や幹線道路を整備するためには、県・国を交えた議論が必要になってくることから、期成同盟会等の組織を設置し、国・県への要望活動を実施していくということになる。

○医療について

- ・住民が安心して住めることが何よりも大切で、高齢化社会においては特に医療機関

の充実が求められる。かかりつけ医をもつ、というのは文字にするのは簡単なことであるが、平日だけでなく休日も診療治療してもらえる病院・医院を圏域でどこでも見つけられる、という状況にはない。医療情報へのアクセスを容易にするとともに、平日、休日それぞれ、安心して診療治療を受けられるように改善していく必要があると思う。

○その他

千葉大学・広井良典教授が実施した全国規模の自治体アンケートによると、コミュニティの中心として重要と考えられる場所は、1番目に学校、2番目に福祉・医療関係施設であったということである。高齢者と若者が安心安全に生活でき、同時に、高齢者と若者を支える現役世代にとって充実した雇用環境がある、そんな圏域を構築していく必要があると思う。

以上